

平成28年5月12日

**日清製粉グループ 連結決算、次期連結業績予想****[平成28年3月期連結決算]**

**売上高** 5,567億 1百万円 (前期比105.8%)  
**経常利益** 280億99百万円 (前期比110.0%)

(株)日清製粉グループ本社(社長:大枝 宏之)の平成28年3月期につきましては、政府の景気対策の効果等により、緩やかな景気回復の動きがみられました。一方、海外においては、中国の経済減速等の影響により、不透明な状況が続きました。当社関連業界につきましても、消費者の節約志向の継続等、懸念される状況が継続しました。また、昨年10月に大筋合意されたTPP(環太平洋経済連携協定)交渉は、当社関連業界への影響が想定されることから、引き続き動向を注視し、適切に対応してまいります。

このような中、当社グループは、2020年度を最終年度とする新経営計画「NNI-120 II」の取組みを進めました。コア事業の収益基盤の再構築に注力すると同時に、買収事業を含めた自立的成長と新規戦略投資等の実行により、着実な利益成長を目指すとともに、積極的な株主還元に取り組んでまいります。

当社グループ各事業につきましては、市場の活性化に向けた積極的な新製品の上市・拡販の取組みや、国内外における事業基盤強化に努めました。国内では、製粉知多工場新ラインが本格稼働するなど、臨海大型工場への生産集約を進め、コスト競争力強化を推進しました。また、神戸の冷凍食品工場が稼働し、冷凍パスタの出荷を開始しました。本年1月には、中食・惣菜事業強化のため、(株)ジョイアス・フーズの株式を新たに取得し子会社化しました。海外では、米国で製粉4工場買収後のPMI(Post Merger Integration:M&A後の統合プロセス)を推進するとともに、平成29年秋の稼働予定で、カナダの製粉工場の生産能力増強工事を進めております。また、トルコのパスタ工場が稼働し出荷を開始するなど、各施策が順調に進捗しました。

これらの結果、売上高は海外事業の拡大や国内での拡販により、5,567億1百万円(前期比105.8%)となりました。また、海外売上高は1,000億円を超え、海外売上高比率も約20%となりました。利益面では、原材料価格の高止まり、戦略投資による減価償却費の増加等はありませんでしたが、加工食品事業の新製品や中食・惣菜、酵母・バイオ事業、健康食品事業等の販売が好調に推移し、加えて海外事業も伸長したことから、営業利益は237億69百万円(前期比116.1%)、経常利益は280億99百万円(前期比110.0%)、親会社株主に帰属する当期純利益は175億61百万円(前期比109.5%)と、増収増益となりました。

当期の配当につきましては、連結ベースでの配当性向を40%以上とする新経営計画の基本方針のもと、当初の予想通り、前期より2円増額の1株当たり年間24円を予定しております。

**[平成29年3月期通期連結業績予想]**

当社グループを取り巻く環境は、消費者の節約志向の継続や原材料価格の変動等、引き続き不透明な状況が予想されます。このような環境下においても、当社グループは小麦粉をはじめとする安全・安心な「食」の安定供給という使命を果たしてまいります。また、新経営計画「NNI-120 II」で策定した戦略を着実に遂行し、各事業においてお客様視点に立った新製品の開発や広告宣伝活動等の販売促進及び生産性向上等のコスト削減に取り組むとともに、海外事業の拡大を推進してまいります。

以上により、平成29年3月期の業績見通しにつきましては、売上高は5,600億円(前期比100.6%)、営業利益は243億円(前期比102.2%)、経常利益は283億円(前期比100.7%)、親会社株主に帰属する当期純利益は187億円(前期比106.5%)としております。

次期の配当につきましては、当期よりさらに2円増額の1株あたり年間26円を予定しております。これにより、実質的に4期連続の増配となる予定であります。

以上